

バラだけ
じゃない

知られざる世界

今では本市のバラの名所の一つとして楽しんでいる里見公園。戦国時代、里見氏と北条氏の合戦場であったこの地は、江戸時代になると景勝地・行楽地として、大正後期から昭和初期は遊園地として親しまれてきました。その面影は今も見ることが出来ます。バラと一緒に里見公園の歴史の足跡にも目を向けてみてはいかがでしょうか。

図 0673-6551 歴史博物館

知られざる
1
世界

－戦国時代－

国府台は激動の歴史の舞台

当時、国府台周辺を舞台に安房の里見氏と小田原の北条氏により、二度の激戦が繰り広げられています。これがいわゆる国府台の合戦。結果は里見氏の敗北に終わります。その歴史の足跡は里見公園に残された国府台城跡の碑や土塁から見るすることができます。また、道の駅いちかわやいちかわ観光物産インフォメーションなどでは、国府台城の御城印を購入できます。



▼御城印

©山城ガールむつみ

知られざる
2
世界

－江戸時代－

里見公園の一带は景勝地・行楽地だった

歌川広重「富士三十六景 鴻之台と祢川」(「名所江戸百景」)や斎藤月岑刊行の「江戸名所図会」には当時の国府台の様子が描かれています。江戸名所図会に描かれている「夜泣き石」は現在も里見公園内で見ることができます。

江戸を望む眺望の良さや、当時人気があった小説「南総里見八犬伝」で描かれた里見氏ゆかりのスポットとして親しまれていました。



▲「富士三十六景 鴻之台と祢川」成田山靈光館所蔵

夜泣き石伝説

1564年、合戦にでていた武将・里見弘次の娘が父の安否を気遣い、遠い安房の国から国府台を訪れました。娘は戦場跡の凄惨な情景を目にしながらも、懸命に父を探しまわり、ついには父を葬ったとされる場所でもたれて息絶えてしまいました。それ以来、夜になるとその石から悲しい泣き声が聞こえてきたという伝説から、「夜泣き石」と呼ばれています。(『市川のむかし話』より)



▲夜泣き石

知られざる
3
世界

－大正時代－

東洋一を目指した遊園地があった

江戸時代には景勝地・行楽地となった里見公園のある場所には、大正時代になると、「里見八景園」という遊園地が開園します。当時のキャッチコピーは「風景東洋一、眺望絶佳、一日ノ清遊ニ最好適」。八景園内には動物小屋、大滑り台、プール、音楽堂などが設置され、多い時には1日の来場者が1,000人以上となる日もあったようで、元祖アミューズメントパークとしてにぎわいました。



▲当時のチラシ



アクセス
●京成バス
●国府台病院から徒歩5分
●京成本線
●国府台駅から徒歩20分

風景東洋一、眺望絶佳、一日ノ清遊ニ最好適



▲名物の高さ6mの木製大滑り台



▲子どもたちでにぎわったプールと太鼓橋



▶現在も残る太鼓橋

知られざる
4
世界

－大正時代－

「市川市最高標高地点」の秘密

現在、里見公園には「市川市最高標高地点」の碑があります。この本市最高地点はもともとあったものではなく、里見八景園内にプールを造る際に掘った土をトロッコで引き揚げてきたものだといわれています。当時は音楽堂が建っていました。



◀標高は30.1m

知られざる
5
世界

－昭和～現在－

バラが彩る里見公園

現在の里見公園の原形ができたのは1968年ごろ。そして時を経て2007年に「バラサンクガーデン」の縮小版を再現しようとバラ園ができます。バラサンクガーデンとは1953年に市川駅北口ロータリーに約300本のバラの苗木を植えた場所のことで、1972年に撤去されました。バラサンクガーデンにあったバラの一部は里見公園に移植されました。

現在、里見公園では春バラが満開です。春バラは大輪で鮮やかな色が特徴で、5月上旬から6月中旬ごろまで楽しめます。また、10月中旬から11月下旬ごろには、濃い色と豊かな香りが特徴の秋バラが咲き誇ります。バラが彩る華やかな里見公園をお楽しみください。



▲満開の春バラ

2023

いちかわローズフェアが
開催されます

1年で最も美しく咲く春のバラに囲まれながら、すてきなひとときをお楽しみください。

日5月13日(土)午前9時30分～午後3時(雨天の場合は翌日開催)

場里見公園

内オープニングセレモニー(午前10時)

●市川市消防音楽隊の演奏

●バラ、季節の草花の販売

●朝採り新鮮野菜の販売

●市川土産「いちかわバラ物語」の販売

●フラワーロードトレインに乗りう

●樹木クイズラリーなど

図0318-5760花と緑のまちづくり財団

(公園緑地課)

▲フラワーロードトレイン